

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年5月9日

事業所名 児童発達支援・放課後等ディサービス

NICC

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	各部屋はあるが活用されていない。	仕切りを増加して、見就学時だけのスペースを作りたい。
	2	職員の配置数は適切である	6			研修や勉強会でのスキルアップ
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	4		特性に配慮した情報伝達方法を学ぶ。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			日々の業務開始、終了時に清掃消毒の徹底。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			業務内容をPDCAシートに落とし込む。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		意見箱の設置	意見箱の活用や毎月末に保護者へ評価依頼を行う。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			全面的に見える化をし、保護者の皆様に安心感を感じて頂けるようにする。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		常に新鮮な業務ができるように考える。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			勉強会や研修で学んだことを職員間で共有し実践できるように努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			利用開始、モニタリング終了後即座に作成し活用する。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			使用しているが全職員との情報共有を徹底する。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1	ミーティングで確認、共有を行っている。	常に見直し、支援に行かされているか検証が必要。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		ミーティングで確認、共有を行っている。	日々の支援に落とし込む。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	朝礼ミーティングで全職員で共有している。	職員のSSTトレーニングのレベルアップを行う。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		毎月、全職員で1か月の予定作成を行っている。	全職員で児童一人ひとりの特性を把握して、何度も見直し検討する必要がある。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		実践後の振り返り、検証を徹底している。	常に見直し、支援にいかされているのか検証が必要。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	6		朝のミーティングで全職員の役割を確認、共有している。	祝日、長期休みのミーティングができていないので時間の工夫が必要。
	18	4	2	翌日の朝のミーティングで振り返りをしている。	振り返りで出た情報が次の支援に生かされるように全職員での共有を徹底する。
	19	6			適切に記録ができ支援に繋がれるように記録方法を見直す。
	20	6			相談支援事業所主催のものに限る。
関係機関や保護者との連携	21	6			会議後、全職員に共有し迅速な見直し実践ができるように努める。
	22	2	4		お互いで情報共有ができ支援に繋がっていく。
	23		6		担当者会議等で情報収集を行い、その都度連携を行う。
	24		6		担当者会議等で情報収集を行い、その都度連携を行う。
	25	5	1	担当者会議等で情報共有を行う。	送迎時等で常に情報共有する。
	26	5	1	担当者会議等で情報共有を行う。	送迎時等で常に情報共有する。
	27		6		研修等を積極的に参加し、全職員と共有するように努める。
	28		6		地域との交流機会を増やす。
	29		6		積極的に参加する。
	30	6		送迎時や連絡帳を用いて行っている。	会報やホームページ等を利用して行うことも考えている。
31	4	2		ペアレント・トレーニングというより、相談を受けた時だけの助言だったりするので、計画的にトレーニングができればと考える。	
32	6		入所時に説明を行っている。	丁寧な説明を心がける。	
33	6			常に保護者の方と連携を取りながら同意書を頂いている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			ラインや電話等のご相談にも対応させて頂いているが、相談しやすい環境をもっと整える必要がある。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		開催にあたっては、アンケート等を行い慎重に計画を立てる。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			迅速かつ適切な対応を心がける。安心して頂けるように間口を広げ環境を整える。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			定期的に、会報やホームページの更新で発信して行けるよう努める。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		鍵のついている場所での保管	今まで以上の注意や鍵の扱いを怠らない。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			改めて文章化し、わかりやすくお伝えするように心がける。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		年間行事として取り入れていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	2		保護者と常に連携し、必要に応じて主治医に指示を仰いで頂く。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	各部屋はあるが活用されていない。	保護者と情報共有を行い、緊急時に適切な対応が出来るように全職員で共有を徹底する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハット事例集を作成しミーティング等で共有する。	全職員で事例検討会を開催する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			全職員に研修を行い、適切に対応していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。